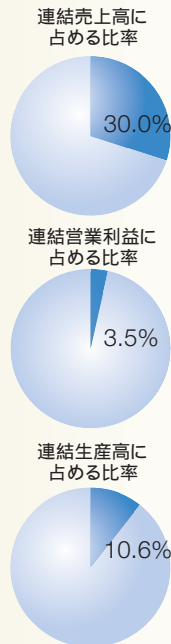
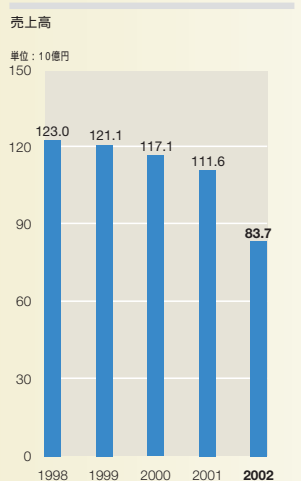


● 日本



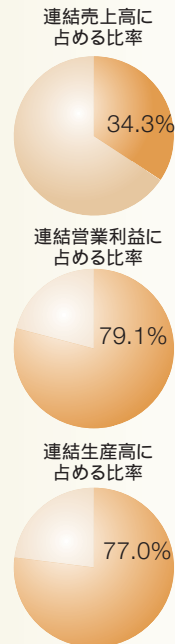
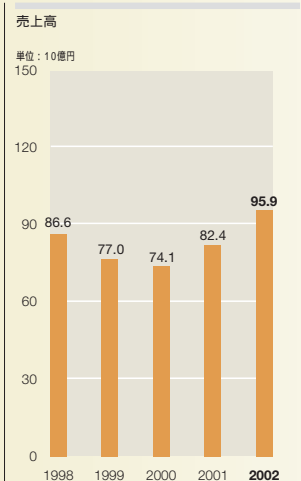
情報通信関連機器市場の低迷に加えて、多数のユーザーのアジア地域への生産シフトが進んだ結果、売上高、営業利益共に大幅な減少となりました。

売上高は前期比25.0%減の837億500万円となり、連結売上高に占める比率は30.0%でした。営業利益は前期比93.5%減の7億6,700万円となり、連結営業利益の3.5%でした。また、生産高は296億900万円とグループ全体の10.6%でした。

当期は、製品ごとの営業組織と主要ユーザーごとの販売部門を新設するなど、ユーザー対応のスピードアップとユーザーへのサービスの質の向上を目指して国内の営業体制を再編しました。また、製造面では、軽井沢製作所を大幅に改装し、ベアリングや小型モーターのマザー工場としての機能の強化をはかりました。

なお、前期に撤退を決定した車輪事業については2001年11月に工場を閉鎖し、また、前期に譲渡した家具輸入販売事業も、契約に基づき、請け負っていた一部の買い付け業務を2002年2月に完了しました。

● アジア（日本を除く）



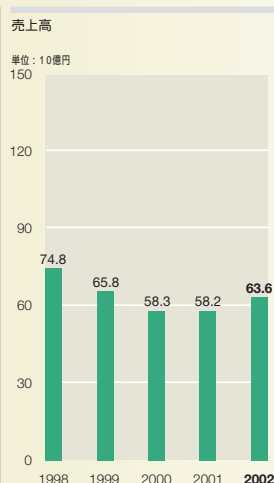
日本や欧米の情報通信関連機器市場の低迷による影響はありましたが、主力ユーザーの当地域への生産シフトがさらに加速したこともあり、販売は堅調に推移しました。また、ミネベア全体の事業環境が厳しい状況の中で、全生産高の75%以上を占めるタイ、中国、シンガポールの量産拠点において徹底した製造コストの低減や生産効率の引き上げに重点的に取り組みました。

この結果、売上高は前期比16.3%増の958億8,400万円となり、連結売上高に占める比率は34.3%でした。営業利益は前期比0.1%増の173億8,700万円となり、連結営業利益の79.1%でした。なお、当地域の生産高は2,150億9,700万円とグループ全体の77.0%でした。

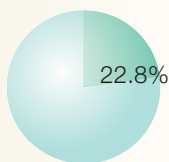
当地域は、特にユーザーの中国への生産シフトが加速したことに加えて、現地市場も拡大基調を続けており、当社にとって最も重要かつ成長性のある市場地域です。当期は、売上高が日本地域を初めて上回りました。

このような状況に対応するため、当期は、アジア地域の営業体制を強化しました。具体的にはシンガポールがアジア全域を統括していた従来の体制を、シンガポールが東南アジアを、香港が香港・中国・Taiwan地区・韓国を統括する体制に再編すると共に、各営業拠点で技術サービスのためのセールスエンジニアの増強、営業担当の増員を実施しました。特に香港の営業拠点には米国ユーザー対応のために当社北米販売子会社のメンバーを駐在させたほか、韓国ユーザー向けに韓国人営業メンバーを駐在させるなど、重点的に強化しました。

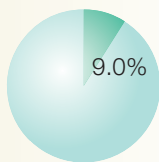
● 北米・南米



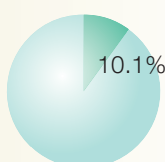
連結売上高に
占める比率



連結営業利益に
占める比率



連結生産高に
占める比率

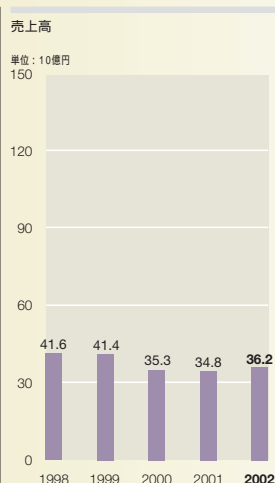


米国経済の急激な減速によりファンモーターの販売が低迷しましたが、キーボード、スピーカーなどは堅調に推移しました。また、2001年9月の米国多発テロの影響により航空機関連の受注は減少しましたが、前期からの受注残の消化が順調に進み、航空機向けベアリングの売上は増加しました。

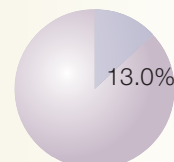
この結果、売上高は前期比9.2%増の635億6,900万円となり、連結売上高に占める比率は22.8%でした。営業利益は前期比48.3%増の19億6,800万円となり、連結営業利益の9.0%でした。なお、当地域の生産高は283億4,500万円とグループ全体の10.1%でした。

当期はスイッチング電源、ファンモーターや自動車関連製品を中心に販売子会社NMB Technologies Corporationの開発機能の強化を行い、さらにユーザーごとに開発から量産まで専任で担当するチーム体制の発足など、研究開発技術分野の強化に重点的に取り組みました。また、前述のとおり、当地域の販売子会社メンバーを当社香港地域の営業拠点に駐在させ、中国への生産シフトが進む米国ユーザーの対応を強化しました。

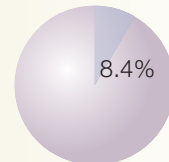
● 欧州



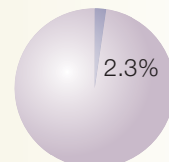
連結売上高に
占める比率



連結営業利益に
占める比率



連結生産高に
占める比率



欧州経済の減速傾向が高まった中で、同地域の主力製品であるボールベアリングやロッドエンド&スフェリカル・ベアリングなどの売上高は堅調に推移しました。利益面では、小型モーターの開発子会社であるドイツのPrecision-Motors-Deutsche-Minebea-GmbH(PMDM社)へのロイヤリティー収入が減少した分、前期に比較すると減益となりました。

この結果、売上高は前期比4.1%増の361億8,600万円となり、連結売上高に占める比率は13.0%でした。営業利益は前期比25.5%減の18億5,000万円となり、連結営業利益の8.4%でした。なお、当地域の生産高は62億9,300万円とグループ全体の2.3%でした。

当期は、スイッチング電源の研究開発拠点の合理化や、ファンモーター、HDD用スピンドルモーターなどの開発強化をはかりました。特に精密小型モーターはベアリングに次ぐ当社事業の柱となる製品であり、HDD用スピンドルモーターを中心とした小型モーターの開発を行うドイツのPMDM社の活動内容はさらに重要度が高まっています。